

1-1 可算名詞と不可算名詞

まず、ウォーミングアップのつもりで Step 1 の練習問題に取り組んでみましょう。
その後で解答と解説をよく読んでみてください。

Step 1

次の英文にはそれぞれ1箇所、名詞の誤りがあります。[] 内に正しい形の英単語を記入し、英文を「ですます」調で全訳してください。

(1) There are three button on the monitor.

[] _____

(2) The computers that execute programs are called hardwares.

[] _____

(3) Press the Enter key and follow a series of instruction on the screen.

[] _____

(4) This machine operates on voltage of 100V and 120V.

[] _____

(5) The equipments will be used tomorrow.

[] _____

Step 1 の解答・解説

- (1) [buttons] モニタ上には3個のボタンがあります。
button は可算名詞なので複数形を表す s が付きます。
☞ 冠詞については LESSON 2 で学びます。
- (2) [hardware] プログラムを実行するコンピュータはハードウェアと呼ばれます。
コンピュータ分野において、software (ソフトウェア) と hardware (ハードウェア) は対比される概念です。**概念は不可算名詞**なので、この文のように主語が複数であっても複数形にはなりません。
- (3) [instructions] Enterキーを押し、画面上の一連の指示に従ってください。
a series of は「一連の」を意味する形容詞句。したがって、後に続く名詞は複数形になります。なお、先頭が a で始まっているのは series が単数であるためです。
- (4) [voltages] この機械は、100Vと120Vの電圧で動作します。
本来、voltage (電圧) は物質の性質を表す不可算名詞ですが、V = volts (ボルト) のように**具体的な数値 (ボルト数) を表す場合には可算名詞扱い**となります。
- (5) [equipment] その設備は明日使用される予定です。
equipment (設備、施設、装置) は**集合名詞なので常に単数扱い**となります。同様の集合名詞として、furniture (備品、家具)、machinery (機械類)、documentation (文書類) などがあります。
☞ will be と未来形になっていますが、will の使い方は LESSON 3-3 (時制の変化) Step 2 をご覧ください。

● 文法ワンポイント

英文法を学ぶ第一歩は品詞を攻略することです。中でも最も重要な品詞は、名詞と動詞です。英語の名詞には単数形と複数形がありますが、日本語には明確な複数形はありません。同じ名詞でも、英語では数えられるかどうかを重視する傾向があり、日本語ではあまり名詞の単数と複数に厳密に意識しないことが多いようです。また、日本語には「1個、2個…」のほか、「～匹、～本、～冊、～人、～羽、～株」のような様々な数え方があるという特徴があります。

Step 2

次の【原文】を英訳する場合、英文において名詞の単数・複数の区別ができない箇所があります。(1)～(3)の訳文のそれぞれについて名詞の単数・複数に関する誤りをすべて修正し、正しい英文に書き換えてください。

【原文】フォルダとファイルを削除しました。

(1) We deleted folder and file.

(2) A folder and a files are deleted.

(3) I have deleted two or more file in the folder.

文法解説・ここがポイント

名詞には可算名詞 (countable noun) と不可算名詞 (uncountable noun) があります。前者は数えられる名詞であり、後者は数えられない名詞です。

- ・可算名詞には、単数形と複数形があります。単数形には冠詞の a(n) または the が付きます。規則的な変化の可算名詞の場合、複数形の末尾には s または es が付きます。
- ・不可算名詞の場合は、原則として単数形のみで複数形は存在せず、通常は無冠詞単数形で用いられます。

▶ 可算名詞と不可算名詞の両方に用いられる単語

名詞の中には、可算名詞と不可算名詞の両方に用いられる単語があります。例えば、temperature (温度) は物質の性質を表す不可算名詞ですが、1000℃～2000℃のように具体的な温度範囲を表す場合には可算名詞扱いとなります。「温度」自体は物質の性質を表す抽象的な概念ですが、1000℃～2000℃のように具体的な数値 (numerical values) であれば個々の数値 (= 温度) として数えられるからです。

同様に、voltage (電圧)、pressure (圧力)、speed (速度) などの物理量は、一般に単数形、複数形、無冠詞単数形のいずれにも用いられます。以下に例を示します。

- (1) A voltage of 120VAC.
- (2) Two voltages of 120V and 240V.
- (3) The operator applied high voltage to the terminals.

- (1) の訳例は：交流120ボルトの電圧。「交流120ボルト」という1つの数値を表すので単数形となります。
- (2) の訳例は：120ボルトと240ボルトの電圧。「120ボルトと240ボルト」という2つの数値を表すので複数形となります。
- (3) の訳例は：その作業員は、それらの端子に高電圧をかけた。単に「高低」のみを問題としており、特に具体的な数値が念頭にあるわけではないので high voltage のように無冠詞単数形となります。このように無冠詞単数形は数値を念頭に入れない表現の一種といえます。

不可算名詞には、物質名詞、抽象名詞、固有名詞などがあります。物質名詞とは、気体、液体、固体などの数えられない物質を表します。抽象名詞とは、性質、状態、条件、動作、概念、行為、動作などです。固有名詞とは、人名、地名、製品名、会社名、書名、学術名などです。

▶ 不可算名詞の例外

不可算名詞の場合、一般に無冠詞単数形で用いられますが、前後関係で限定されたり、特定の形容詞が付いたりする場合は、可算名詞と同様に the が付くことがあります。また、本来は不可算名詞であっても、文脈によっては可算名詞扱いとなり、複数形になることがあります。固有名詞に関しては、慣用的に the が付くものもあれば、常に無冠詞単数形で用いられるものもあり、一般的な規則があるわけではありません。

☞ 冠詞については LESSON 2、固有名詞の例については LESSON 1-6 で学びます。

Step 2 の解答・解説

(1) We deleted folders and files.

folder も file も可算名詞なので複数形を示す -s が必要です。実務翻訳においては、名詞の単数複数に迷ったら無冠詞複数形にするのが無難です。

(2) A folder and a file are deleted.

a files という言い方は正しくありません。複数形を示す -s を付けるか、a file とします。

(3) I have deleted two or more files in the folder.

意味的には自然な訳文ですが、two or more は「複数の」という意味なので -s を付けます。